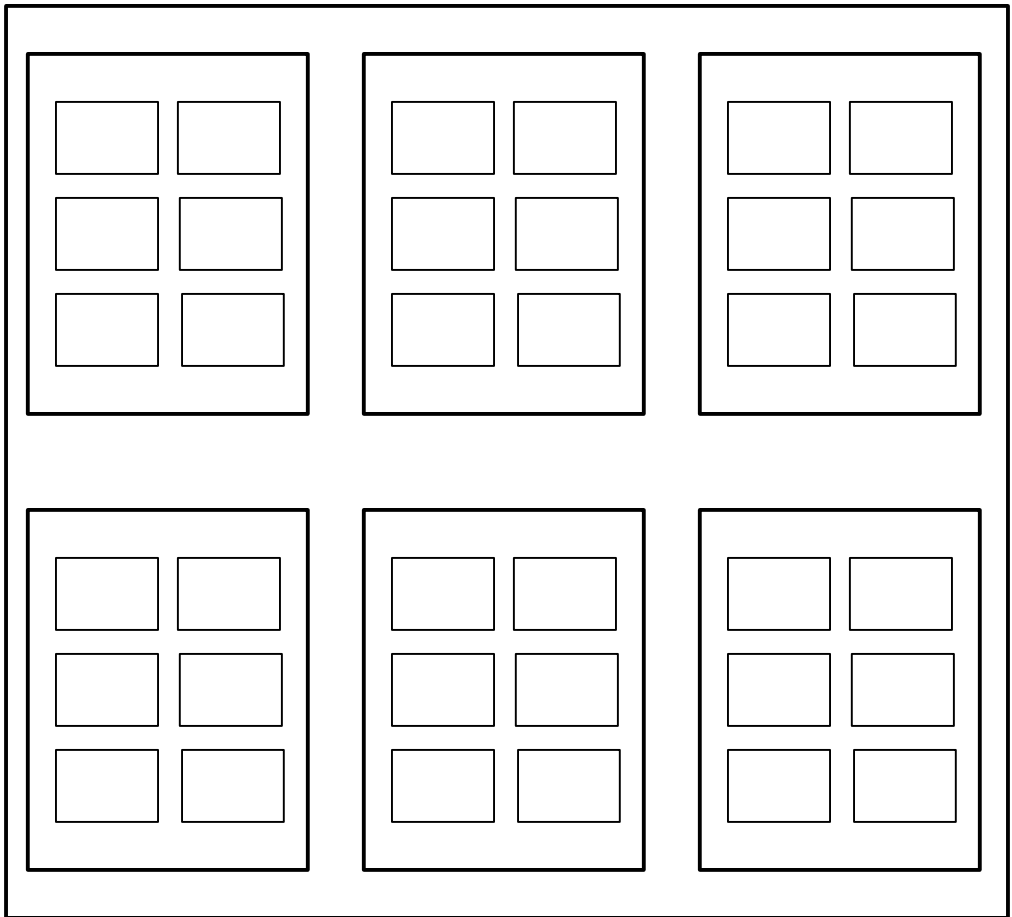


GTB

ReDimension ユーザーズマニュアル



目次

第一章 お使いになる前に

1 . 動作環境とインストール	7
1 - 1 . 推奨動作環境	7
1 - 2 . ReDimension のインストール手順	8
2 . ReDimension 概要	12
2 - 1 . 概要	12
2 - 2 . 取り扱うファイル	16
3 . サンプルアプリケーション	17
4 . Windows 基本操作	18
4 - 1 . マウスの操作	18
4 - 2 . ウィンドウ操作	20
4 - 3 . リスト操作	23
4 - 4 . メニュー操作	25

第二章 操作説明

ReDimension のオペレーション	27
1 . 基本画面	27
2 . メニュー構成	30
3 . ダイアログ	33
3 - 1 . ホットフォルダ設定	33
3 - 1 - 1 . 設定ダイアログ	33
3 - 1 - 2 . ホットフォルダの設定	36
3 - 2 . オプションの設定	42
4 . HTML によるログファイルの出力	43

5 . トラブルシューティング 43

第一章

お使いになる前に

動作環境とインストール

ReDimension 概要

Windows の基本操作

1. 動作環境とインストール

1 - 1. 推奨動作環境

入力フォーマット : TIFF (1ビット)

出力フォーマット : TIFF (1ビット)

コンピュータ本体 : Pentium 600Mhz以上

メモリ : 256MB以上

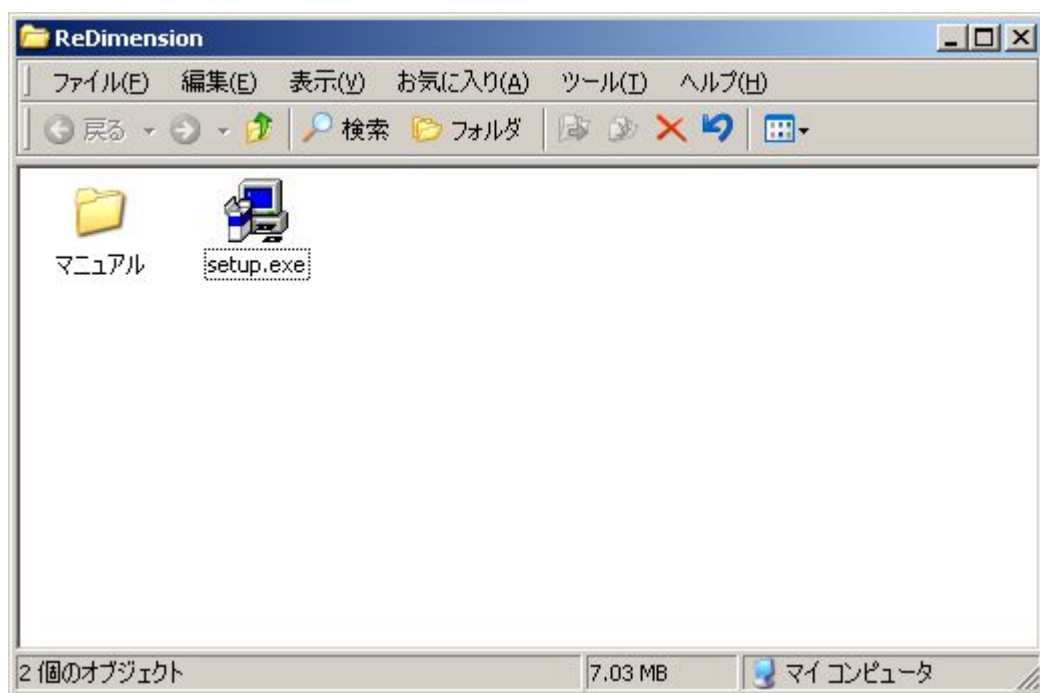
ハードディスク : 20GB以上

OS : WindowsNT サービスパック5以上

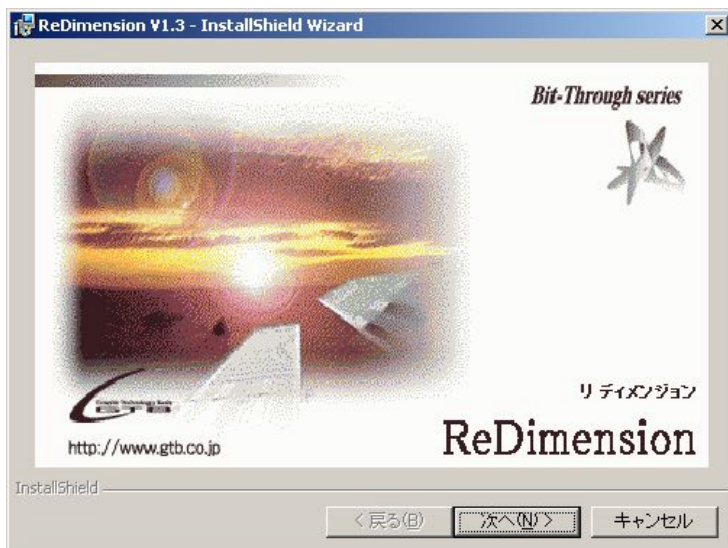
: Windows2000

1 - 2 . ReDimension のインストール手順

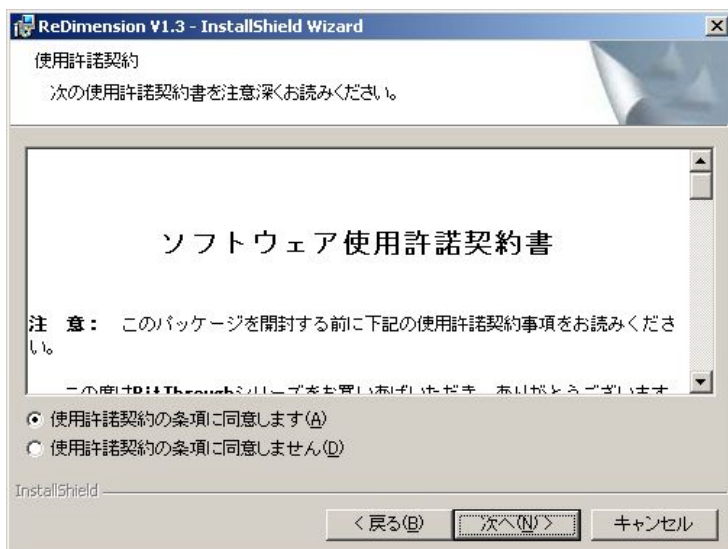
(注意) ReDimension は、起動前にハードウェアキーが接続されている必要がありますので注意して下さい。



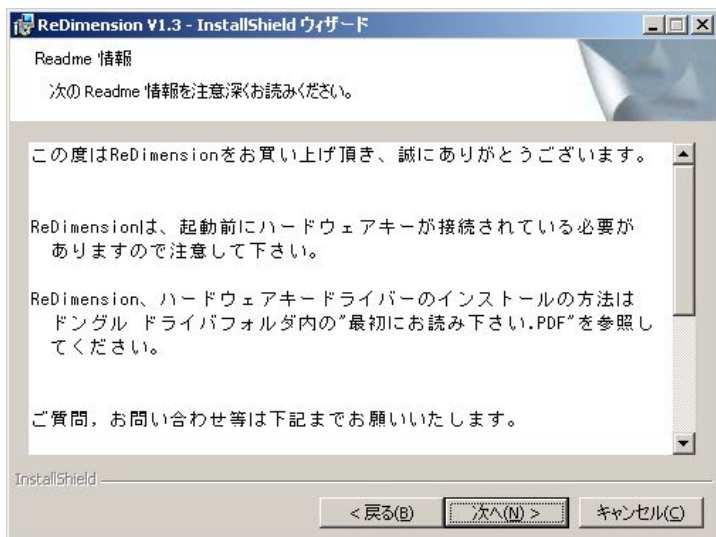
1) C D - R O M内にある「SETUP.EXE」をダブルクリックします。



2)インストールを行う製品のセットアップウィザードが起動しますので「次へ(N)」をクリックします。



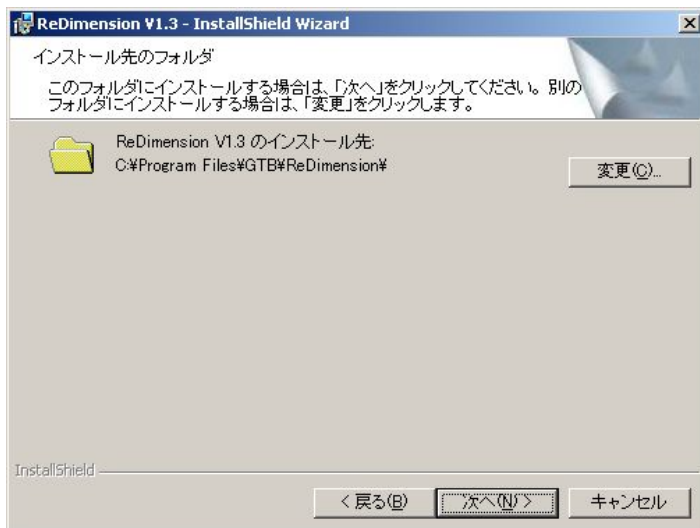
3)製品の使用許諾が表示されますのでよくお読みください。同意いただいた場合、本製品のインストールが可能となりますので「次へ(N)」をクリックします。



4)インストールにあたっての注意事項と製造元の情報が表示されます、よくお読みの上「次へ (N) 」をクリックします。



5)名前と所属会社名を入力し、「次へ (N) 」をクリックします。



6) インストール先のフォルダを指定します。

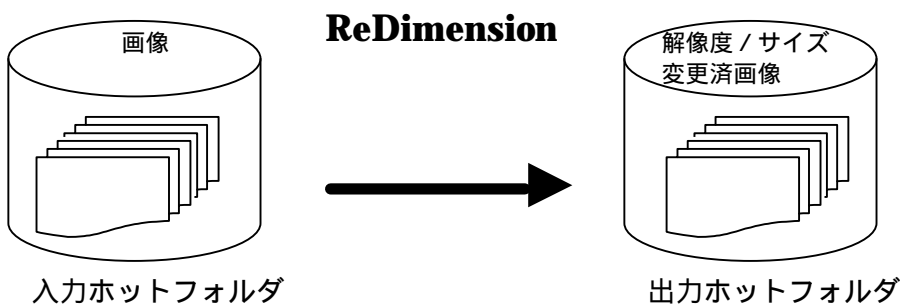
変更する場合は「変更(C)...」をクリックして、パスを直接入力するか、ディレクトリを指定します。「次へ(N)」をクリックするとアプリケーションのインストールを開始します。

2 . ReDimension 概要

2 - 1 . 概要

ReDimensionはバッチ処理で1ビットTIFF画像、グレースケール画像(8ビットTIFF)、CMYKコンポジット画像(32ビットTIFF)の解像度変更及びサイズ変更を行います。弊社製品 Resizer も同様な機能ですが、ReDimension には1ビットTIFF画像を網点部と文字図形部を自動的に認識し、各々に応じた解像度/サイズ変更を行う“縮率”機能があります。

入力フォルダを一定間隔で監視し、新しい画像ファイルが入っていれば自動的に解像度変更及びサイズ変更をし、出力フォルダに保存します。サーバマシンをひとつ用意すれば、複数のクライアントマシンからサーバーの能力を利用して一括処理を行うことができます。



2 - 1 - 1 フォルダセット

監視を行う入力フォルダや処理後の出力フォルダなどフォルダの組み合わせと、拡大縮小率などのパラメータ設定をまとめてフォルダセットと呼びます。複数のフォルダセットを設け、対象CTP、印刷機やプリンタ等に合わせて異なった解像度/サイズ変更を行えます。

2 - 1 - 2 解像度 / サイズ変更

ReDimension では画像の解像度及びサイズ変更ができます。

1) 変換方法

ReDimension には解像度・サイズ変更の種類として以下のものがあります。

解像度変更

画像のサイズを保ったまま、解像度を変更します。

画像の画素数は変わります。

例) 2400DPIから2438.4DPIへ

サイズ変更

解像度を保ったまま、サイズを変更します。

画像の画素数は変わります。

また、縦横の独立変倍（縦横の変更倍率が異なる。）が可能です。

例) 縦方向のみ99.98%にする。

解像度及びサイズ変更

解像度変更とサイズ変更を同時に行います。

例) 600DPIの画像を71%縮小し、2438.4DPIの出力機用画像を生成する。

ホットフォルダに画像を入れると処理が始まります。

2) 画素の生成方法

ホットフォルダに入れられた画像に応じた生成方法が選ばれ変換されます。

2 - 1) 網点画像 (1 ビット TIFF)

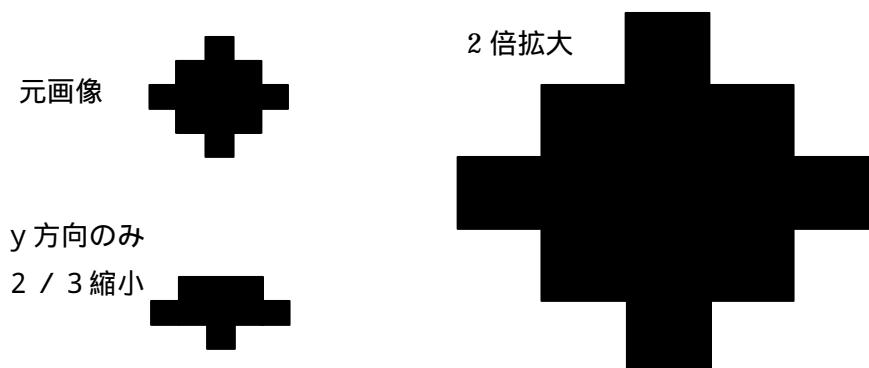
生成方法

解像度、サイズ変更はともに、元画像の個々の画素及び画素群から新画像の画素を生成します。ReDimension では以下の方法を用意しています。

- ・ 単純

拡大時は画素の繰り返し、縮小時は画素の間引きにて新画像を生成します。整数倍の拡大時以外では網点部にパターンが現れやすくなります。

変換率は 12.5% から 800% です。



- ・ 位置ランダム

生成される画素の位置を考慮して変換を行います。

高速、高品質な変換を行います。

変換率は 12.5% から 800% です。

- ・ エリアランダム

生成される画素と元の素画素の関わる面積を考慮して変換を行います。

「位置ランダム」と比べ低速です。

変換率は 12.5% から 800% です。

- ・ ランダムビット

拡大縮小対象になる画素を拡大縮小率に応じてランダムに選択し、追加または削除します。

- ・ 縮率

主に新聞用画像の縮率変換に用います。画像を文字部と網点部に自動的に分離し、文字部は「単純」を基本として変換を行います。白抜き文字も含めて細線（1画素幅）も保存されます。網点部は「位置ランダム」で変換します。

変換率は50%から200%です。

ランダム度

元の網点形状を保存したり、パターンの発生を抑える為の指定です。「ドット生成」方法が「位置ランダム」、「縮率」（網点部だけ）及び「エリアランダム」の場合有効です。0～5までの値が設定できます。

ランダム度0：

「位置ランダム」、「縮率」の場合は「単純」と同様です。

「エリアランダム」は最少のランダム度となります。

ランダム度1～5：

ランダム度が小さいほど元の網点形状が保存されます。逆にパターンの発生はランダム度が小さいほど大きくなる可能性があります。

2 - 2) 多階調画像 (グレイスケール、CMYKコンポジット画像)

生成方法

- ・ バイキュービック

周辺画素間の階調の変化を捉えて新しい画素を生み出す方法で、良質な変換ができます。

- ・ 単純

拡大時は画素の繰り返し、縮小時は画素の間引きにて新画像を生成します。整数倍の拡大時以外では網点部にパターンが現れやすくなります。

- ・ 平均

周辺画素間の階調の平均をとって新しい画素を生み出す方法です。

2 - 2 . 取り扱うファイル

ReDimension ではTIFF ファイル (.tif) を取り扱います。

画像の種類は網点 (1 ビット)、グレースケール (8 ビット)、C M Y K コンポジット (3 2 ビット) です。

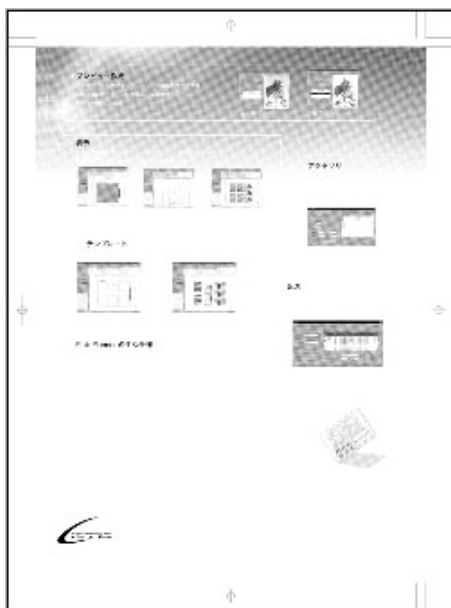
3. サンプルアプリケーション

ハードウェアキー(コピーガード)を接続しないで動作させた場合、有効期限内でだけサンプルアプリケーションとして動作します。

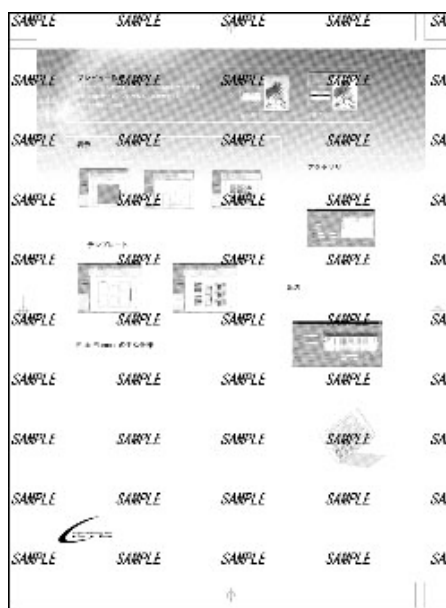
サンプルアプリケーションでは、全機能が使用できますが、出力画像内に“SAMPLE”の文字が埋め込まれます。また本来の処理よりも多くの時間を要します。

(“Creating Sample Images”のメッセージがプログレスバーに表示されている時間が加算されます。)

本来の画像



サンプルアプリケーション時の画像



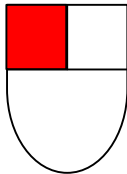
4 .Windows 基本操作

4 - 1 . マウスの操作

マウスはコンピュータに指示を与えるための装置です。マウスには右ボタンと左ボタンがあります。マウスの操作には、クリック（左クリックともいいます）、右クリック、ダブルクリック、ドラッグの4種類があります。

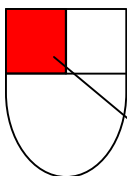
『クリック』

マウスのボタンを1回押してすぐに離すことを、「クリック」といいます。クリックはメニューやボタンを選んだりするときに使います。



『ダブルクリック』

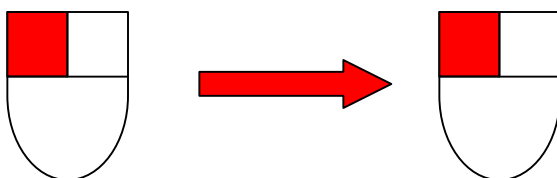
左ボタンをすばやく2回押すことを「ダブルクリック」といいます。ダブルクリックはアプリケーションソフトを起動するときなどに使います。



2回、カチカチと素早くクリック

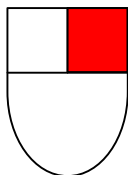
『ドラッグ』

マウスの左ボタンを押したままマウスを動かすことを「ドラッグ」といいます。また、目的の場所までマウスをドラッグした後、マウスのボタンを離すことを「ドロップ」といいます。ドラッグはアイコンやウィンドウの移動や、操作の範囲の選択などに使います。



『右クリック』

マウスの右ボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。右クリックは主にメニューを表示させます。

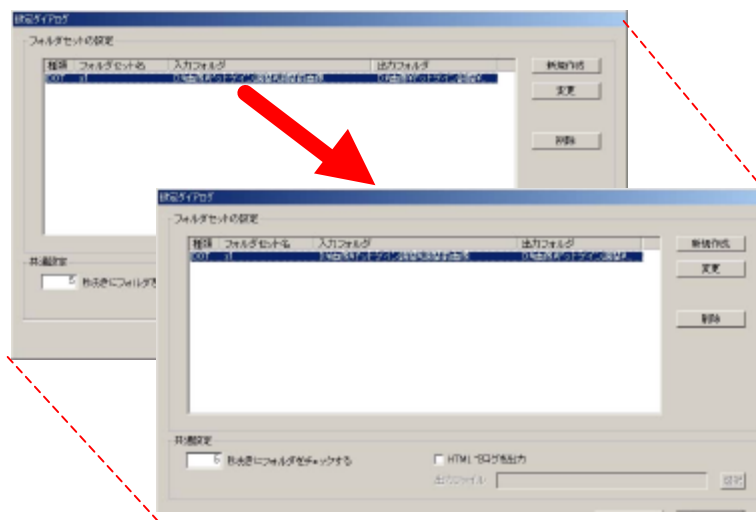


4 - 2 . ウィンドウ操作

ウィンドウは作業を行なう仕事場のようなものです。アプリケーションを起動させるとそのアプリケーションのウィンドウが開かれ、作業ができるようになります。ウィンドウは同時にいくつも開くことができるので、複数の作業を同時進行で行なうことができます。

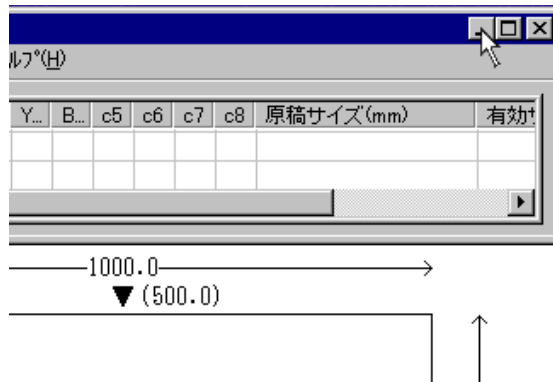
『ウィンドウを移動する』

ウィンドウを移動するときには、そのウィンドウのタイトルバーをドラッグします。移動させたい位置まできたら、マウスのボタンを離します。ウィンドウを移動させても、ウィンドウの大きさは変わりません。



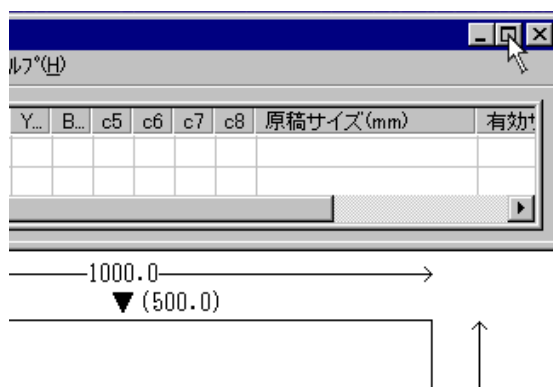
『ウィンドウを最小化する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、左端のボタンをクリックします。すると、ウィンドウはタスクバーに格納され見えなくなります。タスクバーに格納されたウィンドウのボタンをクリックするとふたたび現れます。



『ウィンドウのサイズを変更する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、真ん中のボタンをクリックすると、ウィンドウは画面いっぱいに表示されます。もう一度クリックすると元の大きさに戻ります。またすでに画面いっぱいに表示されている場合、このボタンは元のサイズに戻すボタンになります。



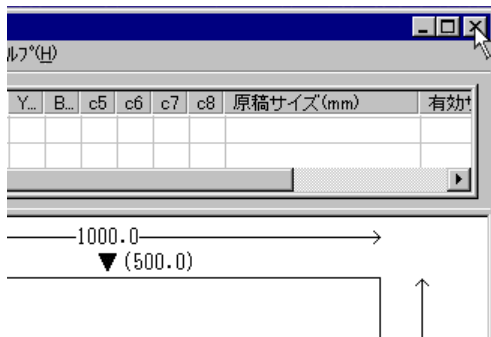
『ウィンドウを好きな大きさに変更する』

ウィンドウの枠の部分にマウスのポインタをあわせると、マウスポインタの形が変化します。この時にマウスをドラッグすると、ウィンドウの大きさが変わります。好きな大きさになったところで、マウスのボタンを離してください。



『アプリケーションソフトを終了する』

タイトルバーの右端に配置されてるボタンの右側のボタンをクリックします。ウィンドウは消え、アプリケーションは終了したことになります。



4 - 3 . リスト操作

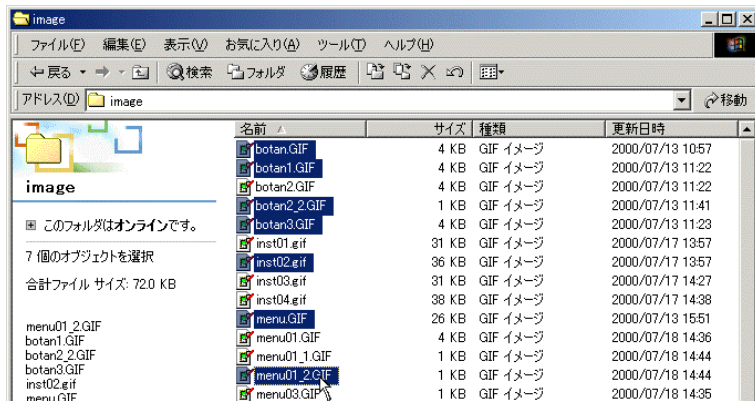
『リストの選択』

リストの一覧のウィンドウで選択したいファイルまたは項目にカーソルを合わせてクリックします。選択した項目の色が変われば、その項目を選択したことになります。



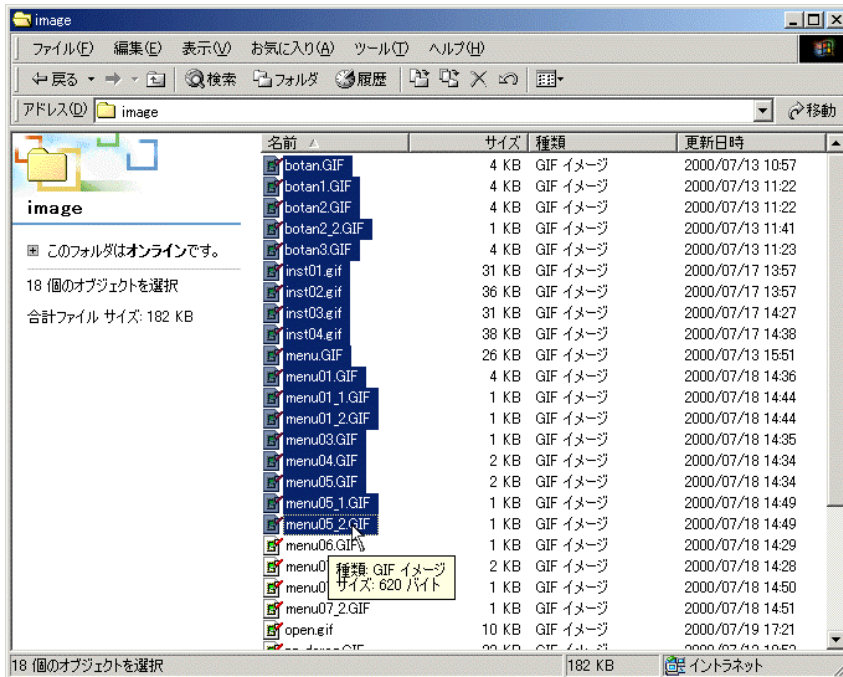
『リストの複数選択』

キーボードの Ctrl キーを押しながらリストを選択すると、複数のファイルまたは項目を選択することができます。



『リストの一括選択』

Shift キーを押しながら、ファイルまたは項目を選択すると、最初に選択されたファイルから、今、選択されたファイルまで一括で選択できます。最初に選択を行っていないときは、リストの最初からの選択になります。



『すべてのリストを選択』

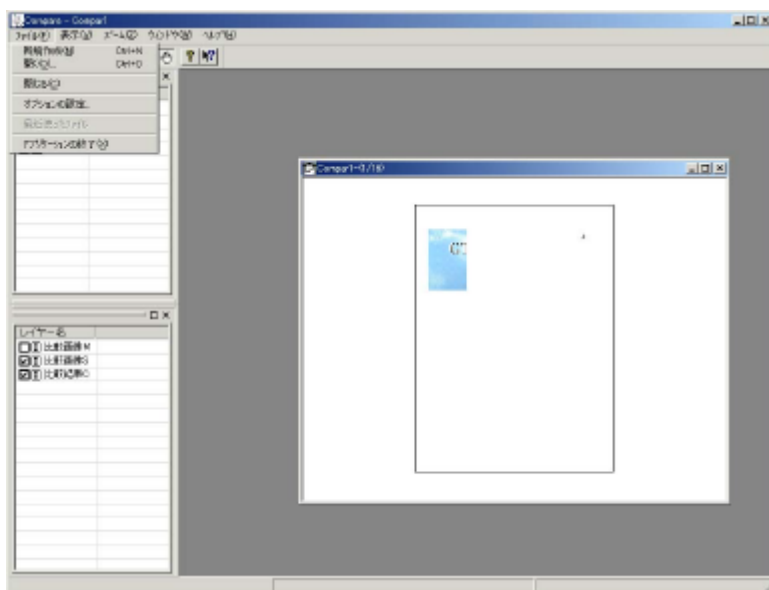
メニューバーの「編集」 - 「すべてを選択」を選択するとすべての項目を選択することができます。Ctrl キーと「A」を同時に押しても同等の効果が得られます。

4 - 4 . メニュー操作

タイトルバーの下の「ファイル」、「編集」などの項目一覧を「メニュー」と呼びます。右クリックなどでもメニューの選択は可能です。メニューバーには選択できる全てのメニューがあります。

『メニューの選択』

行なう作業項目をクリックすると、その項目のさらに細かな作業のメニューが降りてきます。降りてきたメニューの作業項目をクリックするだけです。



第二章

操作説明

ReDimension のオペレーション

ReDimension のオペレーション

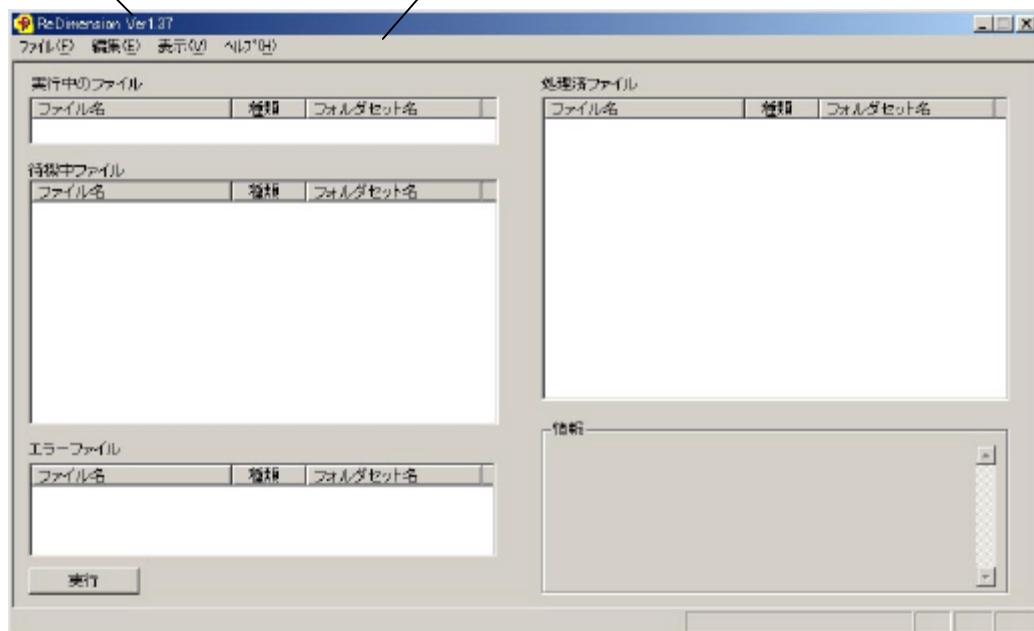
「ReDimensionHF.exe」のアイコンをダブルクリックしますと ReDimension が起動し、基本画面が表示されます。

基本画面は、現在の処理状況を表します。各種設定を完了させ「実行」ボタンをクリックすればフォルダセット毎の入力フォルダ監視が始まり、網点画像が入力フォルダに移されるとドットゲイン補正が行われます。

1. 基本画面

プログラムタイトルバー

メニューバー



『プログラムタイトルバー』

ウィンドウやダイアログボックスの名前が表示されるバー

『メニューバー』

メニュー名が表示されるバー

【実行中のファイル】

現在処理されている網点画像ファイル名とそのフォルダセット名が表示されます。

【待機中のファイル】

入力フォルダに入っているファイルのうち未処理のものが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

【処理済ファイル】

入力フォルダに入っていたファイルのうち、プレビュー作成処理の終了したファイルが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

【エラーファイル】

何らかの原因で処理ができなかったものが表示されます。表示されているファイル名をクリックするとエラー原因の簡単な説明が「情報」枠に表示されます。

【一時停止・実行ボタン】

フォルダのチェックを一時的に停止させたり、再び実行させたりできます。
ホットフォルダに画像を入れると処理が始まりますが、解像度 / サイズ変更率が変
る度に「準備中」のプログレスバーが現れ処理の高速化の準備を行います。解像度
 / サイズ変更率は10種記憶される為、後に同じ解像度 / サイズ変更率で実行され
た場合はこの処理は行われません。

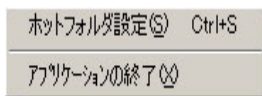
【情報（枠）】

リストのひとつをクリックして選択すると、関連の情報が表示されます。

2 . メニュー構成

基本画面のメニューバーをクリックし、メニューを選択すれば個々の設定や確認ができます。

2 - 1 . ファイルメニュー



1) ホットフォルダ設定

フォルダーセットの設定をします。

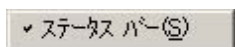
2) アプリケーションの終了

このアプリケーションを終了します。

2 - 2 . 編集メニュー

現在は使用できません。

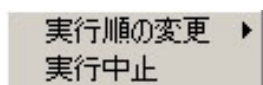
2 - 3 . 表示メニュー



1) ステータスバー

基本画面下部のステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。

2 - 4 . 待機ジョブメニュー



待機ファイルウィンドに表示されているファイルを選択 (Shift、Ctrl キーを使って複数選択も可) し、該ファイルの処理の実行を中止したり、実行順を変えることができます。

フォルダ監視実行中の場合は一時停止とし、指示後再度実行させます。

実行順の変更

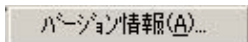


選択ファイルの実行順を “最初” または “最後” に変更できます。

実行中止

選択ファイルを中止できます。

2 - 5 . ヘルプメニュー



1) バージョン情報

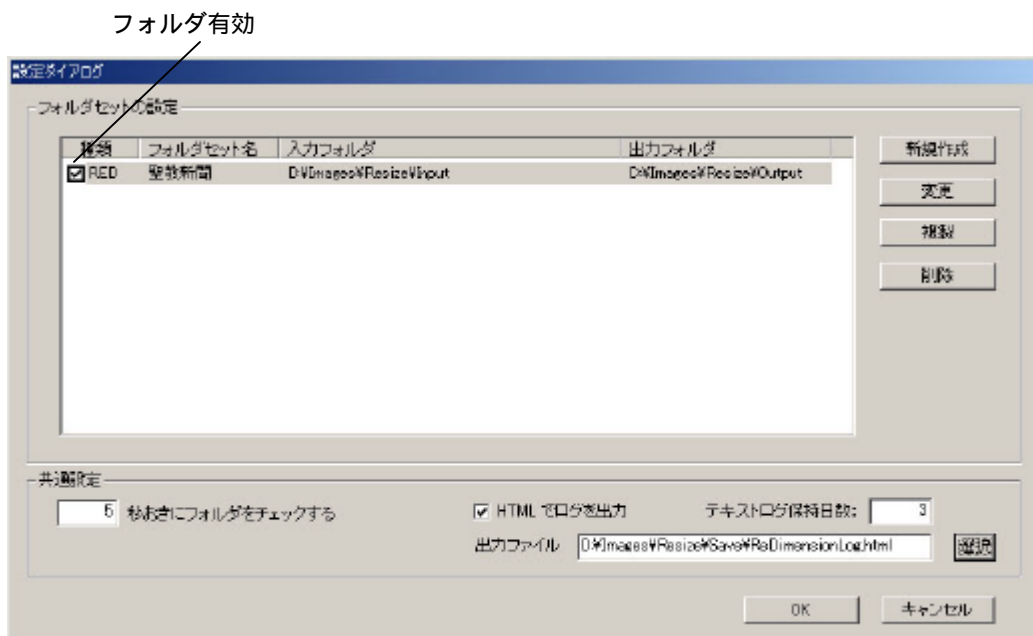
ReDimension のバージョン情報が表示されます。

3 . ダイアログ

3 - 1 . ホットフォルダ設定

3 - 1 - 1 . 設定ダイアログ

基本画面の「ファイルメニュー」から「ホットフォルダ設定」を選択すると、「設定ダイアログ」が表示され、フォルダセットの登録などの設定を行えます。設定が完了すれば「OK」、設定を無効にする場合は「キャンセル」をクリックします。



【フォルダセットのリスト】

現在設定されているフォルダセットが一覧表示されます。任意のフォルダセットをダブルクリックすると「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

各フォルダセットの左端に「フォルダ有効」チェックボックスがあり、チェックをした場合だけ有効なフォルダセットとなります。

【新規作成（ボタン）】

新しいフォルダセットが作成され、「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

【変更（ボタン）】

選択されているフォルダセットについての「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

【複製（ボタン）】

選択されているフォルダセットについての複製を作成します。
後に、【変更（ボタン）】で複製したフォルダセットを修正してください。

【削除（ボタン）】

選択されているフォルダセットを削除します。やり直しはできません。

【共通設定】

・ 秒おきにフォルダをチェックする

入力フォルダをチェックする間隔を指定します。基本画面で「一時停止」されたとき以外はこのタイミングでフォルダがチェックされます。

・ HTML でログ出力

ログファイルを HTML で書き出し、WWW ブラウザでログの確認をできるようにします。詳しい解説は「HTML によるログファイルの出力」のところをご覧ください。

・ テキストログ保持日数

ログは一日ごとに1ファイルが作成されます。テキストログ保持日数の経過したログファイルは削除されます。

3 - 1 - 2 . ホットフォルダの設定

解像度 / サイズ変更を行うホットフォルダのセットを作成できます。

ホットフォルダの設定

セット名: 名称未設定

入力の設定

入力フォルダ: D:\Images\Resize\Input 選択

ネガポジ反転

出力の設定

出力フォルダ: D:\Images\Resize\Output 選択

解像度設定 300 dpi

ファイル名に追加する文字: Resize_ 先頭に追加 末尾に追加

設定

変換方法

サイズ変更
横 98.5 %
縦 86 %

解像度変更
1200 dpi

二値画像

ドット生成

単純

位置ランダム ランダム度 3

エリアランダム

ランダムドット

縮率

圧縮形式 LZW

多値画像

変換方法

バイキュービック

単純

平均

圧縮形式 LZW

処理済ファイル

何もしない 削除する

入力フォルダから指定フォルダに移動する

正常時移動先: D:\Images\Resize\Save 選択

エラー時移動先: D:\Images\Resize\ERROR 選択

OK キャンセル

3 - 1 - 2 - 1 . セット名

【セット名】

フォルダセットの名称を自由に設定できます。変換方法や対象CTP、印刷機などの名前を設定しておくこともできます。

3 - 1 - 2 - 2 . 入力の設定

【入力フォルダ】

自動監視するホットフォルダ名を入力します。「選択」ボタンをクリックして、フォルダ選択ダイアログによって入力フォルダを選択することもできます。あらかじめ入力フォルダを用意していない場合は、フォルダ選択ダイアログの新規作成ボタンを押すことにより、新しくフォルダを作成すると同時に、入力フォルダとして指定することができます。

「入力フォルダ」に「ファイルが入れば自動的に解像度 / サイズ変更を開始します。

【ネガポジ反転】

入力時に画像をネガポジ反転します。結果的に解像度 / サイズ変更結果が、ネガポジ反転された画像として保存されます。

3 - 1 - 2 - 3 . 出力の設定

【出力フォルダ】

出力フォルダは解像度 / サイズ変更結果画像を保存するフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

【ファイル名に追加する文字列】

入力ファイル名にこの文字列が追加され出力ファイル名となります。

例えば入力ファイル名を「A 4パンフレット.tif」追加文字列を「Resize71_」とすると

先頭に追加なら「Resize71_A 4パンフレット.tif」

末尾に追加なら「A 4パンフレット Resize71_.tif」

となります。対象印刷機名などを追加文字列とすればファイル名で補正内容の管理ができます。但し末尾に追加の場合、色名規則外の画像名となり、BitThrough アプリケーションでは使えない場合がでてきます。十分注意して下さい。

【解像度設定】

出力画像の解像度を強制的に任意の値に変更する場合に用います。設定の「解像度変更」とは異なり、画像の各画素には影響を与えません。（画像ファイルに記述される解像度の変更です。）

例えば、任意の画像を98%拡大し2400DPI画像として出力したい場合に用います。

3 - 1 - 2 - 4 . 設定

【変換方法】

「サイズ変更」、「解像度変更」にチェックを入れ処理指示ができます。両方にチェックを入れた場合は、両方の処理が一度に行われます。

「サイズ変更は」元画像に対する新画像のサイズを縦横毎に%で指定します。解像度変更は新画像の解像度を設定します。

二値画像

1ビット画像の設定です。

【画素生成】

元画像の個々の画素及び画素群から新画像の画素を生成する方法を指定します。

・ 単純

拡大時は画素の繰り返し、縮小時は画素の間引きにて新画像を生成します。整数倍の拡大時以外では網点部にパターンが現れやすくなります。

変換率は12.5%から800%です。

・ 位置ランダム

生成される画素の位置を考慮して変換を行います。高速、高品質です。

変換率は12.5%から800%です。

・ エリアランダム

生成される画素と元の素画素の関わる面積を考慮して変換を行います。

「位置ランダム」と比べ低速です。

変換率は12.5%から800%です。

・ ランダムビット（縮率 ReDimension アプリケーションでのみ有効です）

拡大縮小対象になる画素を拡大縮小率に応じてランダムに選択し、追加または削除します。

・ 縮率（縮率 ReDimension アプリケーションでのみ有効です）

主に新聞用画像の縮率変換に用います。画像を文字部と網点部に自動的に分離し、文字部は「単純」を基本として変換を行います。白抜き文字も含めて細線（1画素幅）も保存されます。網点部は「位置ランダム」で変換します。

変換率は50%から200%です。

【ランダム度】

元の網点形状を保存したり、パターンの発生を抑える為の指定です。「ドット生成」方法が「位置ランダム」、「縮率」(網点部だけ)及び「エリアランダム」の場合有効です。0～5までの値が設定できます。

ランダム度0：

「位置ランダム」、「縮率」の場合は「単純」と同様です。

「エリアランダム」の場合は最少のランダム度となります。

ランダム度1～5：

ランダム度が小さいほど元の網点形状が保存されます。逆にパターンの発生はランダム度が小さいほど大きくなる可能性があります。

【圧縮形式】

出力画像の圧縮形式を指定します。



多値画像

多値画像(グレースケール、CMYKコンポジット)の設定です。

【画素生成】

元画像の個々の画素及び画素群から新画像の画素を生成する方法を指定します。

- ・ バイキュービック

周辺画素間の階調の変化を捉えて新しい画素を生み出す方法で、良質な変換ができます。

- ・ 単純

拡大時は画素の繰り返し、縮小時は画素の間引きにて新画像を生成します。整数倍の拡大時以外では網点部にパターンが現れやすくなります。

- ・ 平均

周辺画素間の階調の平均をとって新しい画素を生み出す方法です。

【圧縮形式】

出力画像の圧縮形式を指定します。



3 - 1 - 2 - 5 . 処理済ファイル

処理済入力ファイルの処理を以下の3種から選択設定します。

- 1) 何もしない

ファイルは入力フォルダに保存されます。

- 2) 削除する

ファイルは削除されます。

- 3) 入力フォルダから指定フォルダに移動する

ファイルは【正常時移動先】で指定されたフォルダに移動されます。
が選べます。

【エラー時移動先】

入力ファイルの処理時にエラーが発生した場合、この機能を有効（チェックを入れる）とするとここで指定したフォルダに入力ファイルが移動します。

無効の場合は上記処理済ファイルの設定に従います。

3 - 2 . オプションの設定

基本画面の「ファイルメニュー」から「オプションの設定」を選択すると、使用版の登録などの設定を行う「オプションの設定ダイアログ」が表示されます。
今バージョンでは使用しません。

4 . HTML によるログファイルの出力

ReDimension の処理状況をクライアントマシンの WWW ブラウザ (InternetExplorer、 Netscape など) から見ることができます。

設定方法

1. ReDimension の「設定ダイアログ」でログの出力先を指定します。クライアントマシンからログを見るためには共有されたフォルダを指定します。OK ボタンを押した段階でログファイルが生成されます。
2. クライアントマシンの WWW ブラウザを起動し、生成されたログファイルをドラッグします (または、WWW ブラウザのメニューからファイルを指定します)。
3. 今後 2 の処理をしなくてすむように、WWW ブラウザの「お気に入り」に登録します。(Netscape の場合はブックマークに登録)

5 . トラブルシューティング

入力フォルダに入れたのに、プレビューが作成されない。

設定が正しいのに解像度 / サイズ変更が開始されない場合は、ReDimension とおなじフォルダにある「HfJoblist.def」というファイルを削除してみてください。これにより、これまでに実行したファイルの情報が消されるので、入力フォルダにある全てのファイルを処理に行きます。